

http://www.ihatov-u.jp/

# **NEWS LETTER**

~岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で!~

#### Index

展開9つ農災復興事業」	
■ PICK UP NEWS	2~3
東日本大震災の検証と	
来るべき震災の備えへの提言」	
一資料保存と救済のあり方から	

「いわて高等教育コンソーシアムが

#### ■トピックス 4~7

- ・平成24年度後期「いわて学」
- ・平成 24 年度新規授業科目 後期 「危機管理と復興」
- ・国際リニアコライダー (ILC) 講演会を 遠隔地講義システムで高等学校へ配信
- ・きずなプロジェクト

■ ご挨拶

- ・学生支援交流プロジェクト 岩手県立大学混声合唱団 Polish ミニコンサート 〜ウタノワ〜
- ・被災地の図書修復・整備研究チーム
- ・平成24年度いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウム
- ・平成24年度 高大連携ウインターセッション
- ・第13回平泉文化フォーラム
- ・ヤングリーダーズ国際研修 2013 in IWATE
- いわての大学に行こう!ー いわて5大学、駅前講義 ー
- ~復興へ~〈第1回〉 6
- 特別寄稿「復興へのメッセージ」 8
- 平成25年度 上半期コア科目の予定 8

# ご挨拶

# いわて高等教育コンソーシアムが 展開する震災復興事業

いわて高等教育コンソーシアムは、課題名「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」が、平成20~22年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業として採択されたことを契機に、「いわて5大学学長会議」を発展的に継承して設立されました。



盛岡大学 学長 **徳田 元** 

この始動期を経て、稼働期に入る直前の平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、岩手県も大きな被害を受けました。

東日本大震災後、コンソーシアムを構成する5大学の学長によって、平成23年6月15日「いわて高等教育コンソーシアム学長宣言」が発せられ、「岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で!」を宣言しました。ここで作成された復興計画案は、文部科学省が公募した復興支援事業「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」として採択になりました。復興震災ワーキンググループが策定し、平成23年度から5年間の予定で開始された具体的な事業は、「沿岸復興活動拠点の形成」、「大学進学事業」、「中核的人材育成事業」、「地域貢献事業」の4つです。

本事業は、岩手県立大学の「いわて GINGA-NET プロジェクト」と連携し、全国大学コンソーシアム協議会加盟大学の協力により、5大学の特色を生かしながら震災復興を担う、地域の中核的人材育成と被災地の復興に貢献する研究を推進していくものです。

本事業は、いわて高等教育コンソーシアムの設立目的である、「地域の中核を担う人材育成」、「県内大学進学率の向上」、「地域社会の活性化」に、震災復興という緊急の課題を取り入れたものです。

活動拠点を釜石市に設置し、被災地の高校に TV 会議システムを導入し、講義の配信を行います。また、いわて高等教育コンソーシアムの共通科目である「いわて学」に、震災復興の視点を取り入れ「地域育成プログラム」を開発します。「被災地の図書修復および整備についての研究チーム」と、「文化財の被災調査および修復についての研究チーム」の2つのチームが結成されて活動しています。

これの事業により、地域に根ざし、地域を支える人材の育成を目指して活動を継続していきます。震災復興という地域の大きな課題に、いわて高等教育コンソーシアムは全力で貢献します。どうか皆様のご支援とご理解を賜りますよう、お願いします。

# PICK UP NEWS

# 東日本大震災の検証と来るべき震災の備えへの提言

一資料保存と救済のあり方から

開催日: 平成25年3月16日(土)~17日(日)場所: ホテルルイズ 「万葉の間」



#### 第1部 「文化財・資料」の保存と救済のための連携はどうあるべきか -国・地方公共団体・民間ネットワーク- [3/16(±)13:00~18:00]

写真		所 属	氏	名
1	基調講演	東京文化財研究所保存修復科学センター長	岡田	健氏
2	発 題 者	岩手県立博物館第二学芸課長	赤沼 英	男氏
3	発 題 者	大槌町教育委員会生涯学習課長	佐々木	健氏
4	発 題 者	岩手歴史民俗ネットワーク事務局・岩手大学教授	菅野 文	夫氏
(5)	コメンテーター	歴史資料ネットワーク代表委員・神戸大学教授	奥村	弘氏
6	コメンテーター	静岡県教育委員会文化財保護課主査	笹原千賀	子氏
	司 会	いわて高等教育コンソーシアム地域研究推進委員会委員長· 盛岡大学教授	大石 泰	夫氏

#### 第2部 公文書保存のあり方 [3/17(日)9:30~12:30]

写真		所 属	氏	名
7	発題者	国文学研究資料館准教授		睦氏
8	発題者	天草市立天草アーカイブズ館長		く 美子氏
9	発題者	宮城学院女子大学教授		聡氏
10	発題者	長岡市立中央図書館文書資料室主任	田中	洋史氏
	司会	岩手歴史民俗ネットワーク副代表・盛岡大学教授	熊谷	常正氏

#### 第3部 震災に際しての図書館 [3/17(日)13:30~16:05]

写真		所 属	氏	名
111	① 発題者 帝塚山大学非常勤講師·前神戸大学附属図書館情報管理課長		稲葉	洋子氏
12	⑫ 発題者 岩手県立図書館総務・サービス担当主任		齋藤	力也氏
13	③ 発題者 いわて高等教育コンソーシアム・盛岡大学准教授		千	錫烈氏
	司 会	いわて高等教育コンソーシアム・富士大学教授	斎藤	文男氏

震災復興の地域貢献事業として展開している「文化財チーム」と「図書館チーム」は、直接的な被災地支援事業のほかに、調査研究の成果を活かして復興のために提言するという役割を担っています。その提言の具体的な企画が、「東日本大震災の検証と来るべき震災の備えへの提言一資料保存と救済のあり方から」というシンポジウムでした。

研究チームの東日本大震災についての調査は、「東日本大震災における文化財等レスキューの実態調査」、「阪神淡路大震災・中越大震災時のレスキューの調査とその後についての調査」、「文化財等の防災」の三方面に対するもので、東日本大震災のレスキューに入った各種組織や施設、阪神淡路大震災・中越大震災の被災地、文化財等の保存に関わる特色ある取組を行っているところ(天草市・奄美大島・沖縄本島など)などに調査に赴きました。こうした調査を元に作り上げたシンポジウムは、3部にわたるものとなりました。

#### 第1部

#### 「文化財・資料」の保存と救済のための連携はどうあるべきか -国・地方公共団体・民間ネットワーク-

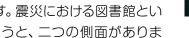
今回の震災で展開した活動を、「組織の連携」ということから検証し、今後の連携のあるべき姿を考えようというものです。今回の震災には、世界中から多くの救援の手がさしのべられました。しかし、それが無駄なく連携が取れて、うまく実施できたかというと必ずしもそうではない部分があったのではないかと思います。直接的に文化遺産・歴史資料に関わるのは被災地の人々と被災地の公共団体でしょうが、甚大な被害を受けた被災地では独自に文化遺産・歴史資料の救援ができるかといえば、困難である場合が多いわけです。ではそれをどのよう救援するかということですが、そこには被災地に届くまでの県や国、また民間の連携がなければならないはずです。ここでは今回の文化財救援活動のできたこと、できなかったことを様々な連携ということから洗い直し、そのことを前提として通常時の非常時に対する備え、またその背景としての文化遺産・歴史資料に対する意識づくりにも議論を展開させてみたいというものでした。



岩手県には県を始め公共団体には公文書館が存在せず、公文書の保存ということからいうと組織的な動きが乏しい実情があろうかと思います。そこで、この第2部では、東日本大震災における公文書のレスキューの現場から立ち上がる議論と、公文書保存の意義を認めて運営している事例報告を元にその必要性を検証しようというものでした。

#### 第3部 震災に際しての図書館

震災に際しての図書館と図書館を運営する司書を養成する高等教育 機関との役割を検証しようというものです。震災における図書館とい





第1部 全体討論



第2部 全体討論



第3部 全体討論



会場の様子

す。一つは、震災についての様々な資料を集積する機関としての図書館という側面、もう一つは図書は文化遺産・歴史資料という側面を持つとともに、被災者の心の癒やしにつながる側面です。今回も全国から寄贈図書が寄せられました。しかし、被災した図書館がそうした寄贈図書をどのように受け入れるかということや、図書館自体をどのように復興させるかということなど、図書館に関わる問題も多く存在しています。この第3部では、こうした問題について議論を行いました。

シンポジウムは3月16、17日にホテルルイズで行われ、日本全国から約170名の参加者を集めました。国や地方自治体の職員、保存科学の専門家、図書館司書の方々などどちらかというと専門の方が多かったのが特徴でした。その議論は、報告書にまとめられるとともに、今後いわて高等教育コンソーシアムからの提言として公表される予定です。



#### 平成24年度後期「いわて学」

5大学の共通授業「いわて学」は、平成22年度から開講し、前期・後期の2つの授業を行なっています。

平成24年度後期は、『「平泉から知るいわて」~いわての復興を考える』をテーマに、10月13日(土)から12月8日(土)までの15回開講、学生82名が履修し、平泉を核としたいわての「地域特性」「魅力」「復興」について学びを深めました。

平泉の現地講義では、歴史や文化に直接触れると共に、世界遺産登録後の活気を感じることができ、参加した学生からは、「現地に実際に行くことができて、充実した授業でした」等の感想が寄せられました。

また、5大学教員の他、外部講師による講義、大学混成のグループ学習を通じて、学生が主体的にいわての地域特性を考えられる授業となりました。

	日時		内 容	講師	会場
1 & 2	10/13 (土)	9:30~12:45	○授業概要説明 ○グループワークで考える平泉	岩手県立大学/佐々木 民夫·豊島 正幸 盛岡大学/熊谷 常正	マリオス 188
3 & 4	10/20 (土)	9:30~12:45	○平泉から知るいわての歴史	盛岡大学/熊谷 常正	アイーナ 812
5	11/3	9:30~11:00	○平泉から知るいわての資源(漆)	净法寺漆産業/松沢 卓生	マリオス
6	(土)	11:15~12:45	○現地講義に向けて	盛岡大学/熊谷 常正	188
7&8&9	11/17 (土)	9:00~16:00 (集合時間等別途指示) ※9:00出発	等別途指示) 〇平泉現地講義 石子宗立人子/ 佐々木 氏大・豆島 正辛 成田士労 / 能公 労工		平泉
10 & 11	11/24 (土)	8:30~12:45 (集合時間等別途指示) ※8:30出発	○平泉から知るいわての資源(鉄) (南部鉄器製造メーカー 「岩鋳」での現地講義)	南部鉄器製造メーカー 「岩鋳」職員	岩鋳
12	12/1	9:30~11:00	○世界遺産登録と平泉	岩手県立図書館 館長/中村 英俊	アイーナ
13	(土)	11:15~12:45	○グループワーク	岩手県立大学/佐々木 民夫・豊島 正幸 盛岡大学/熊谷 常正	812
14	12/8	9:30~10:30	○平泉の情報発信と地域振興	県南広域振興局経営企画部 世界遺産推進課 課長/押切 拓也	アイーナ
15	(土)	10:45~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学/佐々木 民夫·豊島 正幸盛岡大学/熊谷 常正	812



平泉現地講義の様子



グループワークの様子

# 平成24年度新規授業科目後期「危機管理と復興」

危機管理や防災、都市計画、災害カウンセリング、地域コミュニティ再生などに関する知識を学ぶとともに、その内容をグループワークを通して実習することで、復興の担い手に必要な知見と能力の獲得を目的とした科目です。

下記のスケジュール通り、平成24年10月13日から12月15日まで、土曜の午後に2コマずつ(最終回は3コマ)実施しました。 講師は、全国大学コンソーシアム協議会から各大学に講義担当のボランティア教員の募集をお願いし、それに応募して頂いた方々で、いずれも各方面の専門家です。

学生は「過去の事例や取り組み等について、様々な視点から学ぶことが出来た」とアンケートに答えていました。 履修者は18名(岩手大15、岩手県立大2、盛岡大1)でした。

	実施日	内 容	講師	所属大学等	会 場
1 & 2	10/13 (土)	危機管理	村田 静昭	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授	アイーナ 7F 学習室 1
3 & 4	10/27 (土)	防災教育	城下 英行	関西大学 社会安全学部 助教	岩手大学 G22
5 & 6	11/10 (土)	災害カウンセリング	鶴田 一郎	広島国際大学 心理学部 准教授	アイーナ 7F 学習室 1
7 & 8	11/17 (土)	防災	和泉 潤	名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部 教授	アイーナ 7F 学習室 1
9 & 10	12/1 (土)	地域コミュニティ再生	室田 昌子	東京都市大学 環境情報学部 准教授	アイーナ 7F 学習室 1
11 & 12	12/8 (土)	都市と景観	神山藍	金沢工業大学 環境·建築学部 講師	アイーナ 7F 学習室 1
13 & 14	12/15 (土)	防災とメディア情報	畑 祥雄	関西学院大学 総合政策学部 教授	アイーナ 7F 学習室 1
15	12/15 (土)	振り返り:グループワーク	後藤 尚人	岩手大学 人文社会科学部 教授	アイーナ 7F 学習室 1



「災害カウンセリング」講義の様子



-「都市と景観」都市計画再考のグループ演習

# 国際リニアコライダー (ILC) 講演会を遠隔地講義システムで高等学校へ配信

一関高専では、毎年先端的な研究や技術開発 に従事している研究者・技術者を招へいし、先 端科学特別講演会を開催しています。岩手県の 県南地域が国際リニアコライダー (ILC) の建設 候補地となっていることから、平成24年度は東 京大学素粒子物理国際研究センター准教授の 山下了氏を講師に招き、「ILCにおける最先端科 学と加速器技術」と題して開催しました。この 講演会は一関市、岩手県国際リニアコライダー 推進協議会、一関高専教育研究振興会と一関高 専が主催したもので、基礎科学の重要性と、最 先端科学技術の粋を集めた国際リニアコライダー (ILC)の役割を知るための一助とすることを 目的に開催しました。柴田尚志一関高専校長と 勝部修一関市長の挨拶のあと、世界の加速器研

究施設についての情報や、加速器研究から生 まれた技術が医療分野などで実用化されて いることについて紹介して頂きました。ILC が実現すればヒッグス粒子や暗黒物質、ビッ グバンについての研究が大きく進展すること が期待されるとのことです。また、学生にILC や関連する研究に興味を持ってもらいたいと 語っておられました。この講演会はテレビ会 議システムを介して宮古高校など県内の高校 へも配信されました。

#### 【接続会場】

宮古高等学校、久慈高等学校、釜石高等学 校、一関第二高等学校、岩手大学、一関工業 高等専門学校



挨拶をする柴田校長



山下先生の講演

### きずなプロジェクト

#### ~岩手の学生、釜石市で関西の女子大学生と活動~

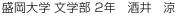
2月19日、20日にいわて高等教育コンソーシアムの学 生と、関西の女子大生によって構成されている関西MyDo ガールズが釜石市青葉公園商店街等で協働して活動を行い ました。19日は陸前高田市と大船渡市で語り部ガイドから 話を聞く、20日は釜石市の青葉公園商店街を廻り夜は商店 街の方を交え釜石マーケティングワークショップを行うとい う内容でした。19日の活動は実際に津波の被害を受けた方



語り部の話を聞く学生達

の話を聞くことによって津波 の恐ろしさ、被災後の行動、 先入観の恐ろしさ、そして復興 していくにあたっての壁とい うものが素直に心の中に入っ てくる、それほど説得力のあ るお話でした。20日の活動は 鉄の歴史館から釜石の歴史を

学び、シープラザで現在の釜石市について学び、商店街廻りを通 して各々が釜石市の復興について考え、夜のワークショップで意 見を出し合うというものでした。ワークショップでは実際に商店 街の方々と一緒に考えることで、本当に必要なことというものが 再確認できたような、そんな感覚でした。2日間という少ない活動 日数ではありましたがそこで得たものは大きく、またこれから学 生ができる復興というものを認識できました。私の中での復興と は活気を生み出すことです。今回の活動はこれで終わりではあり ません。次の機会、もっと多くの方が参加することを期待します。





釜石市立鉄の歴史館にて



ワークショップの様子

# 学習支援交流プロジェクト 岩手県立大学混声合唱団 Polishミニコンサート ~ウタノワ~

大学生と沿岸被災地域の生徒との学習支援交流プロジェクトとし、3月3日(日)、岩手県立大学混声合唱サークルPolishが宮 古高校音楽部の生徒との合唱交流を行いました。この日、岩手県立大学の学生16名が宮古高校を訪ね、高校生15名との合同練 習を経て、同サークルが宮古市において開催するミニコンサートで共演を果たしました。コンサートは日本キリスト教団宮古教会 を会場に、地域住民の方が鑑賞する中、9曲を披露し、最後には会場全体で「故郷」を斉唱し交流をはかりました。

混声合唱団Polishの代表宮本賢さん(岩手県立大学3年)は、「今回の音楽交流で は、高校生とともに唱歌『故郷』の楽曲解釈を進めていくことで、自分たちが合唱でど のように復興に寄与することが可能か考えることができたといえます。」とし、合唱を

通じてお互いの思いを共有したことで「復興支援にお ける音楽のひとつの役割は、一緒に歌を歌うことでそ れぞれの抱える感情に少しだけ寄り添えることではな いでしょうか。復興していく中で合唱が人々の心の支 えとなり、聞いた人々も思わず口ずさむような歌のあ ふれる街になってほしい。」と、今後も継続して交流を 行いたいと今回の活動を振り返りました。



宮古高校での合同練習の様子



コンサート会場にて集合写真(県立大学学生、宮古高校生徒)

## 被災地の図書修復・整備研究チーム

#### ①野田村立図書館での影絵劇上演

2012年5月に再開館した野田村立図書館での集会活動の 支援として影絵劇の上演を3月2日に行いました。盛岡大学短 期大学部の25名の学生が影絵人形の作成の準備から上演ま でたずさわりました。影絵は子ども達にとっては目新しく興味

を引くものであり、非常に喜んでくれました。また参加した学生も子ども達と一緒に影絵遊びをするなど交流を持つことができ、学生達にとっても有意義な活動となりました。来年度も沿岸部の図書館を中心に活動を継続していきます。



野田村立図書館での上演の様子

#### ②岩手県立高田高等学校の校内資料救済活動

津波で被災した生徒会誌・校内便り・新聞スクラップなど校内資料約1,000点を高田高校からお預かりをして資料救済を行っています。東京文書救援隊が開発した救済方法を導入し、遠野文化研究センターの職員の方に技術指導を仰ぎながら3月18日・19日・21日には盛岡大学で校内資料のドライク

リーニング・水洗浄・乾燥の救済活動を行いました。学生ボランティアも延べ40人以上も参加してくれました。洗浄した資料は保存専用器材にファイリングをした上で高田高校にお返しする予定です。



水洗浄作業の様子

# 平成24年度いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウム

平成24年度いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウムが、岩手県教育委員会との 共催により、平成25年2月23日(土)に岩手 医科大学矢巾キャンパスで開催されました。

このシンポジウムは、岩手県教育委員会と今年度締結した「高大連携事業に関する協定書」に基づく活動の一環として捉え、「From Pupil to Student ~「習う」から「学び」への橋渡しについて」のテーマのもと、コンソーシアム連携校の他、岩手県内の中学校・高等学校の進路指導教諭等177名が参加しました。特にも高等学校からは47名の参加があり、関心の高さをうかがわせました。

基調講演講師には花巻北高等学校長 鈴木 晃彦氏をお迎えし、高等学校の視点から捉え

た岩手県の教育に対する提言が、各大学等からは、それぞれの大学等で行われているリメディアル教育や初年次教育の紹介があり、その後のパネルディスカッションでは、活発な議論が行われました。

これまでコンソーシアムでは、岩手県の初等・中等・高等教育の在り方に関する議論を行ってきましたが、高等学校教諭等と意見を交わす機会は多くありませんでした。今回のシンポジウムでは、県内各地の教育現場で進路指導に奮闘されている多くの中学校・高等学校教諭等と問題意識を共有することができましたので、今後の発展的な議論・取組みが期待されます。



花巻北高等学校 鈴木晃彦校長による基調講演



パネルディスカッションの様子

# ~復興へ~〈第1回〉

東日本大震災に際しての岩手県における被災した文化財等の救済は、県内の岩手県立博物館はもちろんのこと、全国の様々な保存科学技術をもった機関によって行われました。それら救済された文化財等は、現在 救済にあたった各機関において適切な保存処置をされている途中であったり、既に処置を終えたものも多数 あります。

問題なのは、こうした処置を終えたものをどうするかということです。当然のことながら、以前保管されていた被災地の施設等は建設されておらず、これを元に戻す場所がありません。全国に散らばった文化財等は何年先になるか分からない元の保管場所(博物館等)ができるまで、散らばったままでいることは望ましいことではありません。これを将来確実に元に戻すようにするためには、少なくとも県内に仮保管施設を作ってそこに収容し、確実に管理しておく必要があります。この仮施設は、統廃合によって廃された学校や市町村庁舎等を利用するなど、工夫をすればいかようにでも作れると考えます。一日も早い文化財等の仮保管施設の設置を提言します。

地域研究推進委員会委員長・盛岡大学教授 大石泰夫

#### 平成24年度高大連携ウインターセッション





岩手大学で授業を体験する高校生

全体会の様子

高校生が、進学意識を持ち、意欲的に取り組むことを期待して、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会が共催で実施しているウインターセッションを、12月25日(火)~12月27日(木)の3日間開催しました。最初の2日間は、各大学に分かれて、学部毎に大学の授業を体験しました。そして、3日目は、全体会として、会場を盛岡市民文化ホール(マリオスホール)に移して実施しました。県下各地から、宿泊を含め3日間の講習に約650名が参加しました。この全体会では、各学部を、人文・社会科学分野、理学・工学・農学分野、そして医学・歯学・薬学分野に分けて概要を説明し、大学教育の全体像の理解を図りました。

### 第13回平泉文化フォーラム





主催者挨拶をする岩手大学藤井学長 奈良大学 坂井秀弥教授の基調講演

平泉文化遺産関連の先端的調査研究成果を広く県民に公開する第13回平泉文化フォーラムを、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会との共催で、平成25年2月2日(土)、3日(日)の両日にわたり、奥州市文化会館を会場として開催しました。

初日はコンソーシアム構成大学を代表し岩手大学藤井克己学長の挨拶の後、奈良大学教授の坂井秀弥氏から「平泉の文化遺産の可能性」と題した基調講演が行われ、平泉遺跡群の今後の調査・活用についての展望を話されました。午後からは、発掘調査成果報告が行われ、柳之御所遺跡や白鳥舘遺跡等が紹介されました。翌日は、岩手大学の藪敏裕教授や劉海宇准教授らによる研究報告が行われました。今回も参加者は350名を超えました。

# ヤングリーダーズ国際研修2013 in IWATE



「森と風のがっこう」での集合写真

2013年2月14日~22日までの9日間、ヤングリーダーズ国際研修を実施しました。4回目を迎える今回はテーマを「エネルギーと持続可能な社会」とし、岩手大学及び岩手県立大学の学生(日本、モンゴル)11名と、岩手大学の海外協定締結大学(中国、韓国、台湾、タイ、アイスランド)の学生12名が参加しました。



真剣にディスカッションする 参加者たち

エネルギーに関する理解を深めるための講義やシミュレーション、ランキング、ディスカッションを経た後、葛巻町にある「森と風のがっこう」において、エネルギー循環に関する体験と実践例を見学しました。

研修最終日には今回の学びをベースに、それぞれが仮想の 行政担当者となり、課題として出された町にふさわしいエネル ギー政策をチームで作成し発表しました。

日英複言語での実施でしたが、お互いが学び合いながら国境や言語・文化の違いを越え、かけがえのない仲間としての絆を築いた研修となりました。

# いわての大学に行こう! -いわて5大学、駅前講義・





アイーナにて講義風景

経済·経営系統について講義する富士大学 影山講師

単位互換·高大連携推進委員会では、「大学進学率の向上」のための取り組みとして、高校1·2年生を対象とした系統別の公開説明会を実施しました。

3月10日(日)、県内各地からのべ650名の高校生が参集し、アイーナとマリオスの2会場に分かれ、希望する系統についての講義を受講しました。受講した生徒からは、「進路について迷っていたが、進学の気持ちが強まった」「進学することだけでなく、大学卒業後のことまで考えるきっかけになった」等の感想が寄せられました。

系統	講師
法学	岩手県立大学 総合政策学部 石堂 淳
医・歯・薬	岩手医科大学 医学部 佐藤洋一
人文・教育・心理	盛岡大学 文学部 富江雅也
工学	岩手大学 工学部 山口勉功
経済・経営	富士大学 経済学部 影山一男

# 興へのメッセージ

長崎県立大学教授 西村 千尋氏 「ボランティアとリーダーシップ」

初回担当講師

盛岡に親友が住んでいることもあり、

震災前にも何度か岩手県に足を運んでいました。もっとも 印象に残っているのは、釜石市根浜海岸から漕ぎだした大 槌湾でのシーカヤックです。しかし、震災によりその風景 がすっかり変わってしまいました。私が何か東北のために 何かできないかと考えていた矢先に、たまたまテレビでイ ンタビューに答えていた東北の人の笑顔を見て、逆に私が 力をもらったのです。この経験が大きなきっかけとなりま した。まず、取り組んだことは、岩手の子ども達に遊んでも らおうと、ゼミ生、九十九島水族館、そして小学生が一緒に なってつくった「九十九島かるた」を、盛岡の親友を通じて 提供することでした。かるたセットのひとつひとつにゼミ生 達が気持ちを込めてメッセージを書き込み贈りました。そし て、長崎県在住のミュージシャン達とともに取り組んでいる NAGASAKI MUSIC LOVER。このイベントの収益の一部 および当日の募金全額は、日本赤十字社長崎支部を通じて 被災された方々への義援金とさせていただいています。私 たちのゼミは長崎ペンギン水族館、ミュージシャンとのコラ ボで制作した「NAGASAKIペンギン体操」教室を開催して います。このように様々な人たちと繋がり、長崎県では活動 の輪が広がっています。そして大学の教壇では、変わってし まった根浜海岸の写真を映し出しながら、担当する講義の 一部に「笑顔のちから」をテーマとして採用し、大学生へ、 そして地域の方々へ伝えることを自分の役割と考え教材研 究に励んでいます。

名古屋大学大学院

環境学研究科 教授 村田 静昭氏 後期集中講義「危機管理と復興」

初回担当講師

私は出張中に八戸市で被災しました。 以来、ご自身も被災者でありながら、遠方からの旅行者に多 大なご援助を頂いた地元の方々に感謝しています。 恩返し

の意を込めてボランティアに応募し、後期のトップバッター

となる危機管理を担当しました。

危機管理とは私達の日常とはかけ離れた感を与える言葉 です。そこで「皆さんも何か実践していますよ。」という問 いから授業を開始しました。危機管理には、事前に危険を 予測して備えることから、事態が発生した後の対処と元の 状態に戻すことまでが含まれます。授業では、「最新鋭機に 潜む欠陥し、「目的地までの燃料を積まない旅客機し、「管 制官の指示を守った機長」、「英語が不自由な操縦士」が原 因となった航空機事故を取り上げました。ここには、人のミ ス、機械の故障、ルールの不備、人とコンピュータとの対立 など様々な原因が複雑に重なり合い、その奥に人間関係、 社会的混乱、企業間の競争などが隠れています。これらを 分類整理することで、因果関係を明らかにし再発防止に役 立てる方法を解説しました。

マニアックな例にどれだけ関心が集まったか不安は残り ます。しかし、最先端科学技術の結晶で起こった事故の背 後にある単純で馬鹿げた原因を知ることで、普段の生活や 社会に潜む事故や災害の予防と発生後の適切な対処につい て考えるヒントになったと思います。授業の準備は私自身に とって大いに勉強となり、このことで東北地方の方々より再 びご恩を受けてしまいました。

#### 【特別寄稿について】

この特別寄稿は、いわて高等教育コンソーシアムが平成24年度より新規に立ち上げた特別集中講義で全国の大学からボランティアで講師をご担 当いただいた先生方から、「復興へのメッセージ」をテーマに、いわて高等教育コンソーシアム集中講義での担当講義の概要説明や、講義を担当した ことで改めて感じたこと、所属大学での復興へ向けた取り組みの紹介、被災地・被災者へ向けたメッセージ等について寄稿していただいたものです。

#### 平成25年度 上半期コア科目の予定

#### ■前期「いわて学 ~いわての復興を考える~」

	日時		内 容	講師	会場		
1&2	5/18 (土)	9:30~12:45	○授業概要説明 ○グループワークで考える 三陸いわて	岩手県立大学 豊島 正幸	アイーナ 803		
3&4	5/25 (土)	9:30~12:45	○自然から知る三陸いわて	岩手県立大学 豊島 正幸	マリオス 188		
5&6	6/1 (土)	9:30~12:45	○歴史から知る三陸いわて	盛岡大学 熊谷 常正	アイーナ 812		
7&8 &9	6/8 (土)	9:30~15:00 ※集合時間等 別途指示	<ul><li>○博物館から知る三陸いわて</li><li>∼岩手県立博物館での 現地講義</li></ul>	岩手県立博物館学芸員	岩手県立 博物館		
10&11 12&13	6/15.16 (土·日)	1泊2日 ※詳細 別途指示	○現地で知る三陸いわて 〜田野畑村・宮古市での 現地講義	現地での講師等、 授業の詳細は 別途連絡	田野畑・宮古		
14	6/29	9:30~11:00	○東日本大震災津波からの 復興に向けて	岩手県職員	マリオス		
15	(土)	11:15~12:45	○グループワーク(まとめ)	岩手県立大学 豊島 正幸	188		

#### ■前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」

	実施日	内 容	講師	所属大学等	会場
1&2	5/11 (土)	コミュニケーション トレーニング	西村 千尋	長崎県立大学 経済学部 教授	マリオス 18F 187
3&4	5/18 (土)	グループワーク	肥後 祥治	鹿児島大学 教育学部 教授	アイーナ 7F学習室1
5&6	6/8 (土)	リーダーシップ	吉田 祐一郎	四天王寺大学 人文社会学部 講師	マリオス 18F 188
7&8	6/22 (土)	ボランティア活動	山本 佳世子	電気通信大学 大学院情報システム学研究科 准教授	アイーナ 7F学習室1
9&10	7/13 (土)	絆・仲間作り	田島 弘司	上越教育大学 学校臨床研究コース 准教授	マリオス 18F 187
11&12	7/27 (土)	組織マネジメント	宮川 正裕	中京大学 総合政策学部 教授	アイーナ 7F学習室1
13&14	3&14 8/3 (土) ソーシャルビ		大室 悦賀	京都産業大学 経営学部 准教授	マリオス18F 185・186
15	8/3 (土)	振り返り	後藤 尚人	岩手大学 人文社会科学部 教授	マリオス18F 185・186

行 連絡先 いわて高等教育コンソーシアム事務局(岩手大学総務企画部総務広報課内) 〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-8 TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

E-mail: ihatov5@iwate-u.ac.jp URL: http://www.ihatov-u.jp/

構成校

岩手大学 岩手県立大学 岩手医科大学 富十大学

盛岡大学 放送大学岩手学習センター 一関工業高等専門学校